

東 亞 天 文 協 會

—(觀 測 部 月 報)—

遊 星 面 課 月 報 (7月)

火星は日一日遠ざかりつつも、未だ観測可能範囲内ではあるが、7月に入つて天氣状態、シーイング共に悪くなり事實上観測をする日は尠く、見取圖も大して集まらない。

火星表面の異状としては火星の秋分を過ぎて、北極冠は益々大きくなりつつある。又 Tharsis 地方に出た黄白色の大きい雲も曇天に妨またげられ乍らもその出現をキャッチし得た。

丁度、北半球の冬になる時期に、地球上の悪天候に阻まれて北極冠結成の連續観測及季節的變化を充分見究め得なかつたのは残念である。

木星は火星に更つて我々テレスコピストの眼を楽しませてくれる。表面の縞模様は1936年度と大差はない。例の大赤斑は、今年に入つていよいよ桃色が強くなり中口經によると美しい Pinkish-Red を呈してゐる。

木星の縞の周期變化も面白い研究目標である。火星程大きい口經を必要としないから8—15糎級の器械の活躍を期待する。

土星が夜半以後の東天を賑はしてゐる。本體の詳細を見るのには大口經を必要とするが、リングの美觀は小口經で美事である。

火星の観測も8月中旬を以て打切る故、観測された方は纏めて御報告願ひ度い。

(E. D.)

流 星 課 月 報 (73)

5月及6月の観測概況

吉井、佐野、實方の3氏及び小楨の観測の外は若干の火球が報告されてゐ

る丈である。未だ到着してゐないものもあるので詳報は後に譲る。

流星群の出現状況

5月5日夜佐野氏は19時40分より20時30分までの50分間の観測中に、獅子座60星附近より放射する7個の流星を見られた。光度は3等乃至5等、速度は中乃至速のものであつた。この流星群は3日後の5月3日及び5日後の10夜にも同氏によつて検出されてゐる。

佐野氏は同じく5月9日、10日、11日の兩3朝水瓶座の流星群を目的として観測された。この中目的の水瓶群は甚だ少數であつたが、10日及11日の朝はこゝま座 δ 附近に輻射點を有するかなり顯著な流星群の活動を認めてゐる。

6月に入つて9日及び11日夜は小槓により、10日夜は佐野、實方兩氏によつてシグスマン流星を探索されたが、これに屬するものと思しき流星は殆んど全く見られなかつた。

5月及6月の兩月間にはこの外、本田實(廣島)、木邊(滋賀)、松橋高四郎(東京)、松本大三(松江高校)の諸氏から火球の報告があつた。

7月に入つて小槓は3, 7, 10, 19, 20の5夜観測をやつたが、10日夜には早くもペルセウス流星と目さるべき流星を1個認めた。19日曉には典型的な停止流星を見た。光等は負1等といふ强光のもので見事であつた。位置は $\alpha=32.5$ $\delta=+47.0$ であつた。同夜にはペルセウス流星群に屬すべしと思はるもの3~4個があつた。(小槓孝二郎)

アルゴル (ペルセウス座ベータ星) の極小豫報

9月17日 0時	11月 1日21時
19 20.5	19 2
10 7 1.5	21 22
9 22	24 19
12 19	12 12 0.5
30 0	14 21
	17 18

此の星は容易に肉眼で観測でき、平常光度は2.2等で極小前5時間程より減光開始3.5等に達しその後5時間して復光する。その間10分毎位に周囲の星と比較してゐると美事なV型の光度曲線が得られる。

比較星	α Persei	等 1.90	ϵ Persei	等 2.96
	γ Andromedae	2.20	γ ”	3.08
	β Cassiopeiae	2.42	α Trianguli	3.58
	β Arietis	2.72	ν Persei	3.93
	τ Persei	2.91		

黃 道 光 課 報 告 (1937年6月分)

課 長 荒 木 健 兒

初夏の西天の黃道光がすばらしい明るさで、瀬戸では寫眞に收められた。また、東天の黃道光も明るく、眼視觀測者は廣瀬、佐野兩君のみであつたが、1, 2, 4, 9, 10, 14, 19 の諸日に調べられ、頂點は随分高く、光帯もよく見られた。天氣がわるくて、多くの觀測が出来なかつたことは残念。

瀬戸の國際中央局の外國との交渉はひろめられつつある。

太 陽 課 概 報 (1937年6月及7月)

	觀測者	齋藤	後藤	久保	伊達	改發	三宅	野口	木邊	正村	杏掛	清水	大石	淺居	森久保	堀田	御供	菊池	田村
6 月	日 數	3	19	18	16	10	19	15	20	13	14	13	6	10	7	16	12	13	14
	平 均	—	195	175	180	230	73	136	128	115	158	167	—	136	—	157	127	168	155
7 月	日 數	9	25	16	14	16	15	19	20	12	11	14	12	10	7	20	—	4	4
	平 均	—	210	163	186	203	99	139	137	138	164	175	139	170	—	151	—	—	—

以上の通り太陽黒點觀測報告受理、諸種の都合に依り本欄例月の型式を今後省略す。

變 光 星 課 報 告 (40)

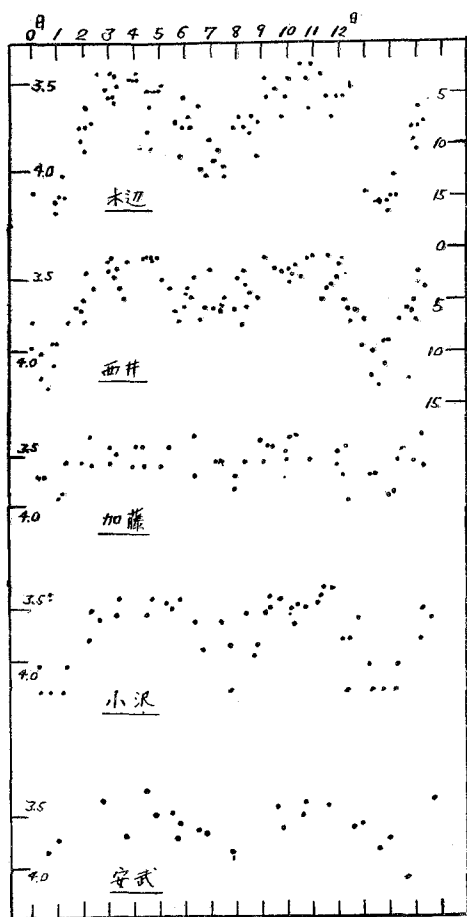
倉 敷 小 山 秋 雄

1937年4月—1937年7月の觀測報告數 (天界193號の續き)

氏 名	今津 (大阪) 績	木邊 (野洲) 成磨	杏掛 (長野) 七二	佃 (京都) 泰三	西井 (大阪) 宗一	西川 (大阪) 英男	廣瀬 (美濃) 永治郎	實方 (京都) 雅雄	小山 (倉敷) 秋雄
報告回數(4回の中)	4	4	1	1	1	3	2	3	4
觀 測 數	66	730	21	12	12	23	47	26	392

詳細は觀測月報（謄寫版刷本年8月で37號に達す．小山宛申込の事）を見られたい．尙變光星圖の型錄新に作成された．

琴座ベータ星の觀測



アルゴルと共に食變光星の代表者である．此の星は周期略12.09日 3.4等より4.3等に變る星であるが、1935.36年に木邊成麿、西井宗一、加藤孝一、小澤喜一、武安研二、河合孝一、井澤一男、菫部進、同守子の諸氏より觀測報告を受けた．双眼鏡を用ゐた人も2、3あるが、他はすべて肉眼である．光度曲線の畫けるものは別圖に示した．ユリウス日2427950が元期にとつてある．此の程度の結果では學術的價値は大してないが、微妙な第2極小の凹みも認められ、仲々面白いものである．